

<議事録>

令和3年度第2回
我孫子市いじめ防止対策委員会

日 時 令和3年10月19日（火曜日）
午後3時00分～午後4時30分

場 所 我孫子市教育委員会 大会議室

令和3年度 第2回いじめ防止対策委員会

<議事録>

令和3年10月19日(火)

我孫子市教育委員会大会議室

15:00~

1 開会 (齊藤)

これより、令和3年度第2回我孫子市いじめ防止対策委員会を始めます。

2 会議の公開について (齊藤)

3 いじめ防止対策に関する報告および協議

<議長>： 先日、文部科学省から児童生徒の生徒指導に関わる調査結果「令和2年度版が出されました。また、「町田市のいじめ事案」、「北海道の事案」、「大津市の事案から10年経過した話題」等が報道されました。その中で、被害側の保護者は10年経っても変わらないという感想を述べていました。我々にとって大切なことは、子どものSOSにいち早く気付くことです。この後、アンケート結果の報告がありますが数字以上に実数があるのではと考えています。

新型コロナの感染は、このところ大幅に減少しています。突然の減少は喜ばしい反面、今後の増加も不安になります。9月22日以降、学校での感染もなくなりましたが、今後とも気を抜くことなく、感染防止に取り組んでいきます。まず始めに事務局から議事の1と2の項目の報告をお願いします。

(1) いじめについてのアンケートによる認知の推移 (齊藤)

まず、6月に実施されました第1回いじめについてのアンケートの集計結果についてご報告いたします。いじめアンケートによる認知の推移(実施時期別)をご覧ください。

問1「あなたは今いじめられていますか」で「はい」と回答した数です。この結果をいじめの認知件数と捉えます。小学校494件、中学校40件で、割合にすると小学校で約9.3%、中学校で約1.4%でした。ただ、昨年度の第1回(6月)は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響と臨時休校、分散登校で通常の学校生活を送っていない中でアンケートを行い、その結果いじめの認知件数は大幅な減少となりました。ですので、昨年度(R2)の数値だけで比較、考察などはできないと考えます。コロナ禍前の令和元年度の第1回と比較すると、ほぼ同程度の結果となりました。

なお、2ページは、1回目と2回目の結果を合わせた認知の推移と、3ページは、学年別の集計結果です。

(2) 第1回いじめについてのアンケートの集計結果及びその他の記述について (P4~10)

4、5ページは、各設問に対する人数、6~9ページには小中学校別に円グラフでそれらを表しています。

はじめの項目「先生に相談したいことはありますか」に関して、小学校では470人(8.1%)、中学校では90人(3.1%)が「ある(記載あり)」と回答しました。

問2のいじめの期間については、小学校では1～3日が166件、1か月以上が106件となっています。短期間で解決するものと長期間に渡っているものとに分かれる傾向にあり、中学校では1か月以上が20件と1番多く、傾向は例年どおりです。

ここからは、10ページの「その他の記述」と併せてご覧ください。

問3のいじめの内容については、小中ともに例年、「嫌なことを言われた」が一番多い結果となっていますが、他にも「無視」や「仲間外れ」、「暴力」などが挙がっています。

問4の場所については、小中どちらも、教室、教室以外の部屋が一番多いですが、小学校では、「その他」の回答が例年通り多くなっています。また、オンラインゲーム内やネット、LINE上での悪口、嫌がらせについては、小学校は減少しましたが、中学校はこれまでと同等数の結果です。

問5「誰にいじめられたか」については、「クラスの友達」「学年の友だち」が例年通り多いですが、特に小学校の「その他」の数が多く、内訳は兄弟、学童の友だちなどです。

問6「誰に相談しましたか」については、回答が多い順に、小学校では、「親」、「だれにも相談していない」「友達」、「先生」で、中学校では数は同程度ですが、「先生」、「友達」、「だれにも相談していない」、「親」となっています。

問7の「あなたは今、誰かをいじめていますか」の質問に、小学校89人、中学校8人で中学校の割合がこれまでより増えています。

問8「それはどんないじめですか」については、「嫌なことを言う」がこれまでと同様に最も多く、小学校では「手紙やLINEなどのSNSやメールでいやなことを書く」がここ数年減少しています。(令和元年度小学校は39件)

問9「誰をいじているのですか」と問10「いじめた理由はなんですか」については、大きな変化はみられませんでした。が、「相手が嫌がらせをしてきたから」や「相手が自分勝手だから」など相手がいじめの理由になっている回答が多いです。

問11「今いじめられている子がいますか」については、小中学校ともに令和元年度と比べると多少減少しています。また、問12「あなたはどうしていますか」については、いじめられている子に対しては、「親や先生に話している」、「やめるように言っている」の回答が多い一方で「だまって見ている」という回答が例年多くあります。

これらの分析および考察については、後ほど報告させていただきます。以上になります。

(3) 第1回いじめについてのアンケート調査後の取組状況調査結果 (別紙1)

次に、第1回いじめについてのアンケート調査後の取組状況調査結果についてご報告します。別紙1をご覧ください。

まず、追跡調査結果についてです。今回のアンケートでいじめられていると回答した小学生は494人いましたが、9月の調査の時点で、未解消が2件でした。中学生はいじめられていると回答した生徒が40人で、未解消は5件でした。

「未解消報告のケースの状況と学校訪問の様子について、佐藤より報告」

〈佐藤〉：(未解消報告のケースの状況については未掲載)

学校訪問での様子は、全体的に1学期より落ち着いて学習が進められています。しかし、一部ですが小学校低学年で授業での「フリー発言」が気になりました。先生が説明をしている途中で、「先生それは〇〇でしょう?」「それ知ってる!」等、発言のルールを守らずに、次々発言していく様子がありました。また、聞くことに集中できない様子もありました。例えば、身体が横向き、文具いじり、手指いじり、髪いじり、落書き等です。学習規律がしっかりしていないといじめが生まれやすく、いじめが起きていない段階での学習規律への対応が大切だと考えています。

「いじめ防止の活動」として、久寺家中の3年生では、班ごとに「いじめゼロ宣言」が作成されていました。クラスの班ごとに内容を話し合い、掲示物を作成してアピールしていました。

アンケート結果を基にした考察について、ご報告いたします。13、14ページをご覧ください。1の集計結果については先ほどの報告と同様になりますので、13ページの2考察について報告いたします。

今回の結果は、数値だけで見ると、どの項目もコロナ禍前と大きな変化はありませんが、長く続く新型コロナウイルス感染症は、子ども達に様々な影響を与えていることを前提に、アンケートには表れない、子ども達の様子や変化に、日頃から目を配り、指導・支援をしていく必要があると考えます。

- ・はじめの質問で「相談したいことが『ある』」と回答した人数が、小中どちらも、いじめの認知件数よりも多く、「いじめ」に至らない内容でも悩みがある児童生徒がいること、また、特に中学校では、「いじめられている」と大ごとにしたくない理由から「はい」と答えない生徒がいると推測されます。
- ・いじめられている期間について、「1か月以上」の回答が多い点は軽視できない点です。このように長期に渡っていじめがあることに対して、学校の継続的な指導・観察が非常に重要です。
- ・自分以外にいじめられている子がいると回答している児童生徒が相当数おり、周りのいじめを認識した時の行動や、いじめに対する意識を高める指導は、これからも教育活動全体で行う必要があります。
- ・相談相手は、親や教員、友だちなどと同じくらい、「誰にも相談していない」という回答があります。日頃から、教員が相談しやすい雰囲気づくりに努めることが大切であり、また、心の相談員やスクールカウンセラーの存在の周知も含め、困ったときに一人で悩みを抱え込むことの

ないような指導が重要です。

- ・ 周りにいじめられている子がいるという認識が、いじめは許さないという意識の表れであり、認識した後に行動できるかが課題です。分かっている、何もできない児童生徒も少なくはないので、大人に助けを求めたり、やめるように働きかけたりする勇気をもつことの指導などで、未然防止につながると考えます。
- ・ いじめを受けている場所は、例年教室が一番多いので、教員は、児童生徒の日頃の何気ない行動や、休み時間の様子などを見逃さないようにする必要があります。
「その他」の記述については、十分に把握し、丁寧に対応していく必要があります。たとえば、「誰にいじめられたか」の質問に、「両親」の記述があった際、家庭内の人間関係に留意し、慎重に聞き取りをしなくてはなりません。また、命の危険にさらされるようなことがあれば、すぐに関係機関と連携して対応しなくてはなりません。
- ・ オンラインゲームや SNS 上でのいじめが小中どちらも起きています。スマートフォンの所持率も数年前から上昇しています。一人一台配付されたタブレット端末の使い方についての指導も併せて、情報モラル教育の重要性が益々必要です。
- ・ 教育相談などは、児童生徒が担任と直接話のできる貴重な時間なので、アンケートの数値だけにとらわれることなく、児童生徒と向き合う大切な時間として取り組むよう、学年主任や生徒指導主任を中心に、校内で常に共通理解を図っていくことが大切です。
- ・ 重大事案につながりそうな案件は、子どもや保護者からの相談や連携機関からの情報、教師の気付きなどから上がっています。改めて、アンケートだけに頼るのではなく、全ての策を講じて、いじめを発見していくことが大切です。

(4) いじめ防止に向けた各学校における具体的な取組 (別紙2)

次に、いじめ防止に向けた各学校における具体的な取組についてご報告します。別紙2をご覧ください。

①授業や学級活動での取組

- 日頃から、友だちに寄り添えるような温かい言葉かけをするように話している。
- 道徳の授業などをおして、それぞれの個性を認め合えるよう指導している。
- 学級会を開き、子どもたち同士の関わり方を考えさせる機会をつくり、指導している。

②学年集会・全校集会(全校朝礼)での取組

- 学年集会を行い、「いじめは許されない行為」ということを伝えた。
- 集団生活の在り方について学年集会で確認した。
- 学年集会を行い、全体の規律を正した。
- 学年集会で、相手の立場になって考えて行動することの大切さについて話をした。
- SNS の使い方や危険性について全体で指導した。

③教育相談・個人面談での取組

- 被害者と加害者、双方と面談を行い、解決に向けての話し合いを持った。
- 教員が間に入り、お互いに気持ちを伝え合う場を設けた。
- 被害者の思いを加害者に伝え、謝罪する場を設けた。
- 困ったことがあればすぐに教員や周りの大人に伝えるように話した。
- 被害者には、定期的に面談をして、いじめが続いているかどうかなどを聞いている。
- トラブルとなった家庭用ゲームについてのルールなどを指導した。
- 気になる子どもは、保護者と連絡を密にする。

④教職員の取組

- 職員会議等でいじめの事案について共通理解を図り、組織的な対応をするようにしている。
- 学年内での共有、引き継ぎを十分に行い、児童生徒の人間関係をしっかりと把握した。
- 部活動顧問と連携し、部活動内での人間関係やトラブルの状況を把握し、解決につなげる。
- 心の相談員やスクールカウンセラーと情報を共有し、定期的な面談などを行っていく。
- 学童の先生と連携して指導した。
- 担任や職員が休み時間や下校の際など一緒にいる時間を増やし、見守り体制を整えた。

(5) 第1回インターネットや携帯電話についての調査結果 (P 11)

次に、インターネットや携帯電話についての調査結果についてご報告します。11ページをご覧ください。昨年度の調査と比べて、スマホ所持率が小学校で2%、中学校で4%上がっています。また、使用時間の4時間以上の割合が昨年度と同様に高い傾向です。」

お手元に、「スマホを持たせるのは遅いほうがよい」という冊子があると思いますが、それについて久米委員から説明があります。

***久米委員:** この内容については昨年度の生徒指導主任研修会でお話しさせていただきましたが、現状としてスマホを持っている子は少なくないので、「持つてはいけない」という指導はできません。しかし「所有権」まで渡していいのかという問題があります。いろいろと使用していく中で、どこにどういう危険があるのかを保護者にも知って欲しいと思います。また使い方として、たとえば使用は居間でとか、夜は自室に持ち込まないなどの約束事が必要です。

4時間以上使用している子が多いのは自室に持ち込んでいるからだと考えます。また使用方法についても、「ながらスマホ」をしないなど、保護者も手本を見せることも必要です。情報ツールとしてよりよい活用方法を子どもと一緒に考えていくことが大切です。

(6) Q-U 検査のいじめ対策項目の比較について (別紙3)

別紙3をご覧ください。6月に行ったQ-U検査のいじめに関する項目の結果について佐藤より報告いたします。

＜佐藤＞：資料は、令和3年度の各学年1回目と、令和2年度の各学年の2回目との比較です。

- ・小3は、2回目を行なっていないので、令和2年度の1回目との比較です。
- ・全体的には「全国より大きく望ましい方向にあります」

そんな中で、我孫子市として気になる点として、

*小3の「9：学校に行きたくないことがある」「10：学校でひとりぼっちでいることがある」の項目です。コロナ感染の影響もあり、行事の減少や縮小での友人とのつながりを育てる場面が少なかったため、1学期新たなスタートでの友人づくりがスムーズにできなかったことが考えられます。

*小4以上の「14：ネット上で友人から悪口や嫌なことをされる」の項目は全国平均と同等という結果でした。ネット問題については、先日の新聞でも昨年度分が報道されていました。

現状では、教師だけで発見するのは大変難しいですが、子どもたちの日常の言動に、より意識をもって観察することや、何気ない会話や連絡ノート等で、「ネットでの様子」を伺うような話をするなどの取組が必要です。また、被害を防ぐためにも、困ったことがあったら極力早く、保護者や先生に相談することが大切であると考えています。

① 意見交換〈議長〉

結論から言えば、今年度第1回いじめアンケートの結果、昨年度の6月と比べれば増加しています。昨年度は緊急事態宣言があつて、学校は臨時休校がありました。6月に再開しましたが接触場面が少なくなりました。今年度は緊急事態宣言があつても休校にはせず、学習は通常に行われています。心配なのは、互いの接触回数が減っているけれども「SNS」の使用の様子など、よく見えないところです。

それでは、只今、事務局より報告のありました件につきまして、ご意見をいただきたいと思っています。

***鈴木委員**：町田市のいじめ事件にあるように、以前からSNSとかLINEのことがありましたが新しい問題としてクローズアップされてきたと思います。今回のQ-U検査でネット上のトラブルの項目が全国並みになりました。今回の検査は6月実施でしたが、小学校では9月からタブレットが急に普及してきたところで、ほぼ9月からの活用となります。この影響を受けずして全国並みになってきた。これはこの先、指導をさらに充実させていかないと町田市の事件と同じようなことが起きるのではと、とても怖くなります。新しい取組を始めると必ず目に見えないものなど、いろいろなトラブルが出てきます。情報を共有して、リスクマネジメントで、被害を最小限にしていく気力でやっていかないと学校自体が委縮していきます。

情報教育について昨年同時期では準備をすすめるといったまだ緩い感じでしたが、今は一人一台持ち、家への持ち帰りもあり、欠席者は家から参加するなど、あっという間に変わって

きました。先生たちも一生懸命に対応していますが、潜む問題はなかなか予測できません。できるだけ共有していかなければ、ネット上のトラブルは減っていかないのではと怖い感じもします。久米委員の話された「所有権を子どもに渡すな」はよく分かります。

***議長**：我孫子市は小学校13校、中学校6校あり、19校との情報共有が大切だと思います。町田市の事件を受けて、我孫子市の実態はどうか説明してください。

***齊藤**：我孫子市でも9月からタブレットの本格的な活用が始まっています。指導の初期段階は同一パスワードを設定していましたが、現在は個別のパスワードに変更されています。明日で全校の変更が完了します。グループチャット機能「チームス」については、設定に制限をかけて使用し、指導課 ICT 担当が定期的にチャンネルの監視・管理、確認を行っています。タブレット端末の活用は始まったばかりですが、これまでも行ってきた情報モラル教育や、家庭へ持ち帰った際は、学習目的にのみ使用すること等、ルールの徹底と十分な指導を引き続き行っていきます。

***久米委員**：チームスのグループチャット機能だが、セキュリティはどうなっていますか。

***齊藤**：子どもたちだけではできないようにしてあります。

***久米委員**：大学でも教員しか作れず、教授が「何をやっているか」定期的に見回っています。大人目でチェックしていかないとまずいと思います。子どもが使っている「スマホ」について、保護者はいつでも見てよいという約束があってもよいと思います。我が家としても多くの制限をかけています。「親として危険な目に合わせたくない」という思いを伝えることが大切です。また親子だけに任せるのではなく、学校などからのルール確認も必要だと思います。

***議長**：我孫子市としても使用に対するルールを設定したり学校独自のルールを決めたりして、親任せにしていません。

***阿部委員**：Q-U 検査でのいじめ項目の比較で、一部を除いて全国平均を上回っていますが、全国平均を下回っている自治体には、地域性等、なにか傾向があるのですか。

***佐藤**：集計元に確認してみます。

***金児委員**：子どもたちが下校するときの様子を見ていますが、ある女の子の話です。女の子がグループで一緒に帰ってきたのですが、グループ内の友達に靴を高いところに投げられて、「とって来いよ！」と言われ、裸足で走って取りに行ったところを目撃しました。本人は「いいよ、取りに行くから」と言っていたが、そのことを本人はいじめと思っているのかいじめられてれていると思っているのか、また靴を投げた女の子たちがいじめていると思っているのか、定かではないと思いました。その子は、担任が苦手な登校できないと聞いていたので、もしかしたらクラスに入るときに、今回のような友達関係が原因なのではと思ったので、ヒートアップする前に「それ以上やったらいじめになるからやめなさい」と伝えました。校長先生にも報告し、そのクラス全員に対し指導してくれました。お互いにやりすぎたことを認識し、ことなきを得ました。

小学校に子どもがいます。保護者の方々は若いです。そもそも「PTA」って何なのかと考えたときに、「もともとは保護者と教師の会」とありました。教師と保護者の連携が必要であり、お互いに情報共有が大切だと考えています。学校とのかかわりが面倒くさいと考える人もい

るようですが、私は良くないと思います。

チームスの話ですが、4年生はグループを作り会話してよいと活用しています。その中で、必ず先生が介入していて、まずい点がないか確認しているそうです。このように大人・教師が関わりをもって進めていることは良かったです。

***小山委員**：いじめで解消できていない例がありましたが、お互いさまのところもあり、なかなか解消できない関係の時、小学校から中学校へは連携がとりやすいと思いますが、中学卒業後はバラバラになっていきます。自然消滅していく場合はいいですが、大元になった一つのイベントがあったとして、それが解決しなかった状態の時は、継続してアドバイスすることはあるのですか？

***佐藤**：場合に応じて、あまりにもひどい場合は高校に伝えておいたほうが良いと判断すれば伝え、連携をとることが出来ます。

***議長**：遠藤所長に質問ですが、長く継続すると精神的なダメージが心配されます。中学を卒業しても継続してのアドバイスなどは行っていくのですか？

***遠藤**：いじめでその時、本人はあまり気が付かなくて「あれがいじめだったのか」ということで、精神的トラウマがある場合、ネグレクトと同じように精神疾患になりやすいのです。いじめの概念をしっかりと教えていくことが大切です。子どもたちに、言葉は一度口に出すと元に戻せない。だから相手には考えながら伝えていくことが大事だと話すことがあります。人生が壊されてしまう子もいるので、中学校で終わりではなく、皆で支えていくことを考えていきたいです。

***熱田委員**：潜在化している状況があるが、市や学校が対応してくれている。しかし、中学2年3年になるとアンケートにはしっかり答えない子もいると思います。より潜在化しているケースをどう把握し、どの辺まで掘り下げられるのか難しいと思います。アンケートに出てこないものに対応して救ってあげられるといいと思います。

***議長**：子どもたちのわずかなSOSに早く気付くことが大切です。口で言うのは簡単ですがアンケートやQ-U検査、いじめ担当が「こういった状況のときには何かある」などを学校現場に提供することで見つけていく。また保護者と連携し、情報を共有することを基本に、地域との連携を進めていければと思います。

***金児委員**：娘のクラスはいいクラスと言われていたが、一人の子を取り合い状態になりちょっとグループが割れてきた時がありました。いじめではないが子どもたちの間で、もやもやしている状態があり、どうなるか見守っていたのですが、終業式のとときに何故か全員集まって遊んでいたのです。皆で遊ぶ中で、対立が起きてしまいました。そんな時、「ママは来ないでいい」と言われました。子どもたちはお互いに嫌なことを言い合ったそうで、もやもやが、無くなったと言っていました。そういった解決できる力を持った子どもたちもいるということをお伝えします。

***齊藤**：最後にコロナワクチンの対応についてですが、「学校は、昨年度から、コロナへの偏見や差別が起きないように、正しい知識とともに児童生徒に指導をしてきました。また、ワクチン接種に関するいじめについても、今年9月に県が作成したリーフレットをもとに、「接種の有無を無理に聞かないこと」、「接種をやめるように言わない」、「無理強いしないこと」、「接

種をしたかしないで仲間外れやいじめは絶対にしない」ことなど、教職員も含めて児童生徒に指導をしています。

***議長** :我孫子市では学校は、9月から通常日課で行っています。コロナ感染が不安で休みが続いている児童生徒は、2学期開始3日間の調査結果では、小学校で121人、中学校で35人となっています。現在はその1/10程度です。また健康上の理由などで登校できない子どもに対しては、今後も暖かくケアしていきたいと思います。
本日の委員会につきましては、以上になります。ありがとうございました。

② その他 [齊藤]

何かございましたら、お願いいたします。

③ 諸連絡 [齊藤]

最後に、今後の予定について連絡いたします。資料にもありますように第3回いじめ防止対策委員会は令和4年2月17日(木)15時から、本日と同じ会場で開催予定です。よろしくお祈りいたします。

④ 閉会 [齊藤]

以上をもちまして、令和3年度第2回我孫子市いじめ防止対策委員会を終わります。ありがとうございました。